

令和 4 年 6 月 27 日現在

機関番号：36101

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2021

課題番号：18K02513

研究課題名（和文）父親の育児関与と夫婦関係の相互依存性に関する縦断的研究

研究課題名（英文）Longitudinal study of interdependence between father involvement and marital relationship.

研究代表者

下坂 剛（Shimosaka, Tsuyoshi）

四国大学・生活科学部・准教授

研究者番号：30390347

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、父親の育児参加を促して母親の負担を軽減するために、量的・質的双方の観点から調査研究を行うことを目的とした。質的研究では縦断的研究として、妊娠中、生後半年、生後1年の3回に渡り5組の夫婦に面接調査を実施し、それぞれの時期で特徴的な理論モデルが得られた。量的研究では、父母双方に実施可能な親の育児関与と尺度の作成や、新型コロナウイルス流行にともない研究期間内の急激な社会的状況の変化に合わせ、COVID-19ストレスが親の育児関与に与える影響を実証的に検討した。また、父親の育児関与と妻へのサポート、主観的幸福感に関する構造方程式モデリングの検証を行い、子どもの年齢による差異を見出した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では、妊娠期から生後1年にかけて、初めて子どもをもった夫婦が協働しながら、どのような子育てを行っているか、各時期の質的な違いを理論的モデルによって図示することで把握が可能となった。また、親の育児関与は夫婦の協働育児のあり方や互いへのサポート意識の影響を少なからず受けていること、COVID-19ストレスが親の育児関与に及ぼす影響の様相、父親の育児関与と妻へのサポート意識及び父親自身の主観的幸福感が子どもの年齢によってどのように異なるか、量的観点で明らかになった。これらの知見は、今後、父親に育児参加を促す上でどのような方法が効果的かを議論する上で、有効な根拠を提供するものと考えられる。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study was to conduct a research study from both quantitative and qualitative perspectives in order to promote fathers' participation in child rearing and reduce mothers' burden. In the qualitative study, a longitudinal study was conducted by interviewing five couples at three different times (during pregnancy, six months after birth, and one year after birth), and a characteristic theoretical model was obtained at each time point. The quantitative study empirically examined the effects of COVID19 stress on parental involvement in child rearing by creating a parental involvement scale that could be administered to both parents, and by adapting it to the rapid changes in social conditions during the study period due to the new coronavirus epidemic. In addition, we tested structural equation modeling of father involvement, support for wife, and subjective well-being, and found differences by child age.

研究分野：発達心理学

キーワード：父親の育児関与 グラウンデッド・セオリー・アプローチ COVID-19ストレス 夫婦関係 主観的幸福感

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

(1) 我が国の子育て支援は、児童相談所や療育施設、医療機関、子育て支援センターなど様々な機関が担っているが、近年その現状は、児童虐待の件数は年々増加し、子どもを健全に育成する環境整備は喫緊の課題となっている。子どもの養育環境が悪化している背景の1つに、離婚率の増加が挙げられるが、離婚後に子どもを引きとるのはほとんどが母親である。離婚後の父親は、養育費の支払いが滞る場合が多く、母子家庭の生活は困窮する。

(2) 結婚後も親としての役割を果たせない父親をどうするかは、子どもの養育環境の向上を考える上で重要な問題であるといえる。近年、「イクメン」というキャッチフレーズのもとに、父親の育児参加を推進する動きは活発化しているが、我が国の男性の育児休業の取得率は今なお3%程度であり、父親そのものを扱う研究も少ない状況にある。

(3) 本研究は夫婦ペアデータによる量的な縦断的研究を行うことを主な目的としていたが、研究期間内に新型コロナウイルスの流行が収束せず、依頼先での調査が困難となり調査実施に支障が出た。そのため、以下の研究目的のうち研究3と研究4は社会的状況に合わせて横断的研究デザインによる新たな研究計画を立案して遂行した。

2. 研究の目的

(1) 父親、母親双方の視点から妻の就労状況を考慮し、家事・育児分担の状況を縦断的に面接調査して、夫婦関係と子育て環境の関係について質的に検討すること(研究1)

(2) 夫婦双方に適切に実施可能な親の育児関与尺度を作成すること(研究2)

(3) 新型コロナウイルスが流行している社会状況を踏まえ、COVID ストレス尺度と父親の育児関与との関連を検討すること(研究3)

(4) 就学前の子どもをもつ父親の育児関与が妻へのサポートと父親自身の主観的幸福感との関連について構造方程式モデリングによって検討し、子どもの年齢による差異を多母集団同時分析によって詳細に検証すること(研究4)

3. 研究の方法

(1) 父親、母親双方の育児・家事分担の質的側面を検討するため、妻が第1子を妊娠中の夫婦5組に対し、妊娠中、出産6ヵ月、出産1年の3時点について、縦断的計画にもとづく調査的面接を行った。

(2) 末子に0-2歳の子をもつ父親と母親各300人、末子に3-6歳の子をもつ父親と母親各300人の合計600人を対象としたインターネット調査を実施した。調査内容は、親の育児関与、夫婦ペアレンティング、妻への(夫からの)サポートであった。

(3) 就学前の子どもをもつ親1,200名(最年少児が0-2歳・3-6歳×父母で300名ずつの均等割付。ただし父母は夫婦ペアではない)に対し、親の育児関与尺度とCOVID-19 ストレス尺度(Muta et al., 2020)についてインターネット調査を実施した。

(4) 第1子が1歳の子をもつ父親165名、第1子が3歳の子をもつ父親209名、第1子が5歳の子をもつ父親226名で、合わせて600名の乳幼児の父親を対象とし、父親の育児関与、妻へのサポート、主観的幸福感に関する横断的研究デザインによるインターネット調査を実施した。

4. 研究成果

(1) 修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ(M-GTA)による分析の結果、それぞれの期で概念(【】)とカテゴリー(<>)が生成され、次ページの図1に示す通り、妊娠期、生後半年、生後1年の各時期に理論モデルが構成された(姫田・下坂, 2022)。

(2) 分析の結果、0-2歳の子の親の育児関与は「身体的ケア」、「家事」、「心理的ケア」、「しつけ」の4因子、と3-6歳の子の親の育児関与は「心身のケア」、「家事」、「しつけ」、「遊び」の4因子が見出され、対象児とした末子の年齢段階によって育児関与尺度の因子構造は異なっていた。父母間の比較では、全ての育児関与下位尺度得点で父親より母親の得点が高かった。育児関与の規定因は、父親は夫婦ペアレンティングや妻へのサポートの影響が大きかったが、母親は夫婦ペアレンティングや夫からのサポートに加え、健康面や家計収入などの人口統計学的変数も影響していた(下坂・姫田, 2021)。

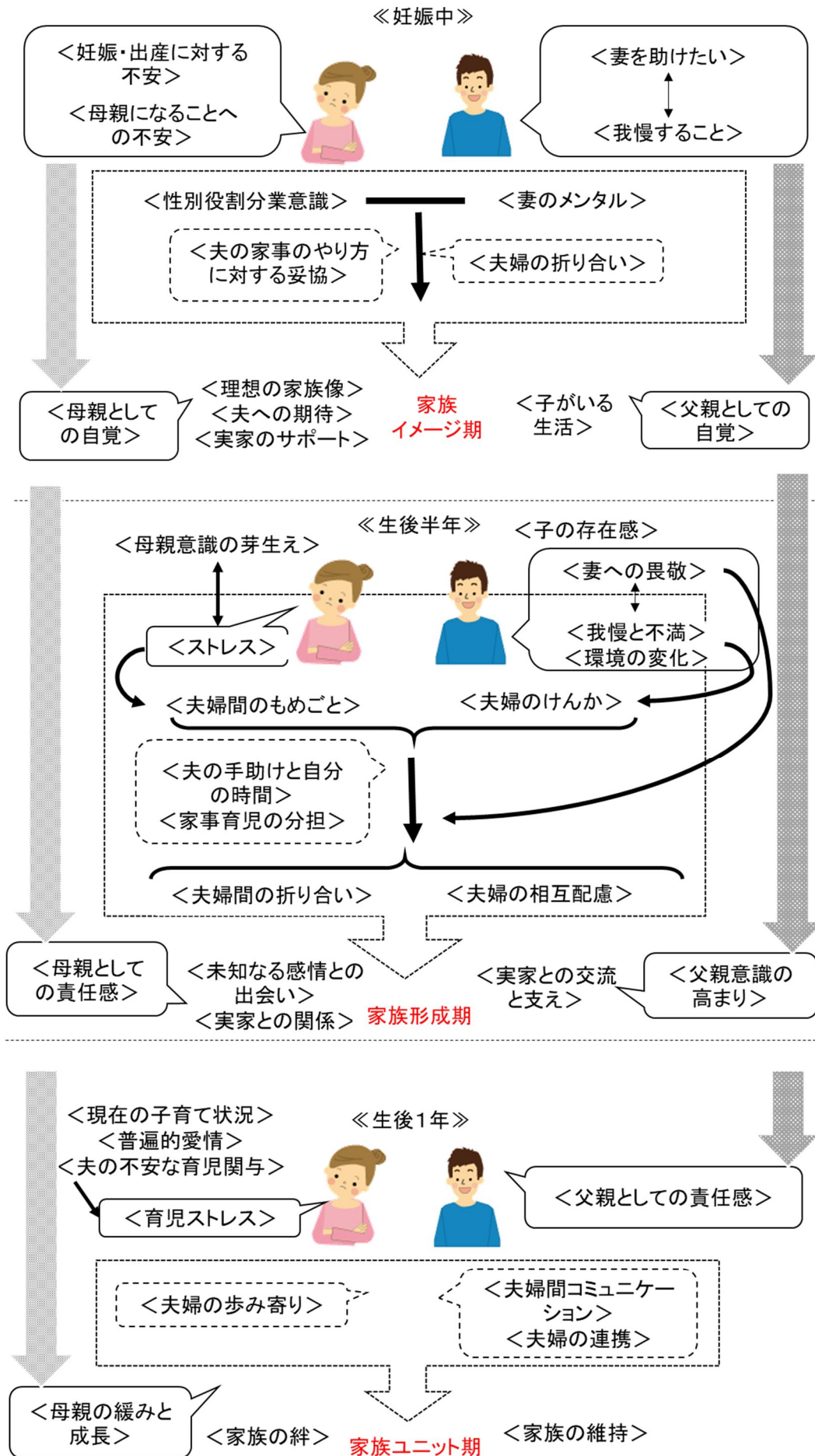


図1 妊娠期・生後半・生後1年のM-GTAによる理論モデル

(3) COVID-19 ストレスのなかでも、ウイルスそのものへの危険認識は、より幼少期の 0-2 歳児のケアにおいて育児関与を強めていた。また親がウイルスに対して強迫的行動や安心感を求める心理状態でいることが、0-2 歳児の親の場合は心理的ケアやしつけを増やしたり、3-6 歳児の親の場合は心身のケアや遊びの関わりを増加させていた。さらに COVID-19 ストレスが PTSD 症状につながっている親の場合は、かなり強く育児関与そのものを低下させていた(下坂,2021)。

(4) 3 群における各尺度の測定不変性の検討が行われた。その上で、3 群の多母集団同時分析により、3 歳児の子をもつ父親の育児関与のうち「心理的ケア」と妻へのサポート、主観的幸福感との間により大きな関連性が見出された。

< 引用文献 >

Muta, T., Takebayashi, Y., Sato, H., Takashina, H., Yokomitsu, K., Enomoto, M., Akiyama, N., Aoki, S., Abe, T., Tanaka, T., & Shimosaka, T. (2020). The Japanese version of the COVID Stress Scales.

姫田 知子・下坂 剛 (2022). 第 1 子を子育て中の夫婦が家事分担と子育て関与をしながら親として成長するプロセス 日本発達心理学会第 33 回大会発表論文集

下坂 剛・姫田 知子 (2021). 未就学児の親の育児関与とその規定因に関する研究 小児保健研究, 80, 494-503.

下坂 剛 (2021). COVID ストレスが就学前児をもつ親の育児関与に及ぼす影響 日本心理学会第 85 回大会発表論文集

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 2件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 下坂 剛	4. 巻 78(4)
2. 論文標題 父親の育児関与と尺度の開発および信頼性と妥当性について	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 小児保健研究	6. 最初と最後の頁 289-295
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 下坂 剛・姫田知子	4. 巻 80(4)
2. 論文標題 未就学児の親の育児関与とその規定因に関する研究	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 小児保健研究	6. 最初と最後の頁 494-503
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計7件（うち招待講演 0件/うち国際学会 0件）

1. 発表者名 永井知子・下坂 剛
2. 発表標題 乳幼児を子育て中の夫婦の育児関与に関する研究（1）－親の育児関与尺度の作成－
3. 学会等名 日本心理学会第83回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 下坂 剛・永井知子
2. 発表標題 乳幼児を子育て中の夫婦の育児関与に関する研究（2）－親の育児参加は仕事へのコミットメントにより影響を与えるか－
3. 学会等名 日本心理学会第83回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 下坂 剛
2. 発表標題 乳幼児を子育て中の夫婦の育児関与に関する研究(3)－就学前の子どもをもつ父親の生活スタイルと育児関与の関連－
3. 学会等名 一般社団法人 日本発達心理学会第31回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 下坂 剛
2. 発表標題 父親の育児関与尺度の開発及び信頼性と妥当性について
3. 学会等名 日本保育ソーシャルワーク学会第5回研究大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 下坂 剛
2. 発表標題 初めて子をもった男性の父親としてのポジティブな変化の軌跡 父親の育児関与についての妊娠期と育児期の縦断的半構造化面接－
3. 学会等名 日本発達心理学会第30回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 下坂 剛
2. 発表標題 COVIDストレスが就学前児をもつ親の育児関与に及ぼす影響
3. 学会等名 日本心理学会第85回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 姫田 知子・下坂 剛
2. 発表標題 第1子の子育て中の夫婦が家事分担と子育て関与をしながら親として成長するプロセス
3. 学会等名 日本発達心理学会第33回大会
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担 者	姫田 知子	四国大学短期大学部・その他部局等・講師	
	(Himeda Tomoko)		
	(30612056)	(46101)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------